

被災地 NGO 協働センター2012 年度事業報告

【事業概要】

1. 寺子屋事業
2. まけないぞう事業
3. 災害救援事業
4. 提言(アドボカシー)・ネットワーク事業
5. 広報活動
6. その他

【事業内容】

1. 寺子屋事業

2012 年度は、2011 年度の寺子屋セミナー「福島の再生のために“フクシマ”と向き合おう！」シリーズの3回目、4回の実施、さらに peace 寺子屋として「安保と原発」というシリーズで 4 回の寺子屋を実施した。また、福島への取り組みとして映画『禁じられた大地・フクシマ』上映会を開催した。

・寺子屋セミナー4 回シリーズ(1 回、2 回は 2011 年度)

「福島の再生のために“フクシマ”と向き合おう！」

第 3 回(4/7)「東日本大震災と私たち」

講師: 神戸松蔭女子学院大学・池田清先生とゼミ生

第 4 回(4/27)「哀れな被災者のままではいけない」

講師: 藤田浩志(ふじた農園 安子島米米生産倶楽部、野菜のソムリエ。福島県在住)

・peace 寺子屋 4 回シリーズ「安保と原発」

第 1 回(8/4)「命を脅かす二つの聖域を問う ～安保と原発～」

講師: 石田雄(ビデオメッセージ)+菊地原博

第 2 回(9/15)「脱原発を実現するために～安保と原発～」

詳細: 第 1 回の振り返り

第 3 回(10/18)「脱原発を実現するために～安保と原発～パート 3」

詳細: 第 1 回の振り返り

第 4 回(12/20)「原発事故から一年 9 ヶ月 県外被災者の悲痛な叫びを聞こう～県外被災者のいま～」

講師: 江口紀子(関西 Future コミュニティ 代表)

森松あき子(福島からの県外避難者)

・寺子屋特別編

—「東日本大震災支援活動報告～1 万人のつぶやき～」(4/6)講師: 頼政良太(被災地 NGO 協働センタースタッフ、東日本被災地担当、当 NGO から ROAD に出向)

—「阪神・淡路大震災をふり返って、今だから言える、あの時できたこと、できなかったこと」(5/31)

講師: 中川和之(時事通信社山形支局長)

—「『つぶやき』から見えること見えないこと」(9/7)

講師: 江口怜(ROAD プロジェクトスタッフ)

—映画『禁じられた大地・フクシマ』上映会(1/17、3/11)

2. まけないぞう事業

現在は、神戸に拠点を移し、月に 1 度 2～3 週間の遠野

に滞在をしながら、岩手県を中心に「まけないぞう」事業を展開。現在の作り手の人数は 94 人となりました 3 年目に入ったいまも、まだまだ手つかずの広大な被災地が広がり、被災者は先の見えない不安や孤独が深くなっている。

しかしながら阪神・淡路大震災より世間の関心は急速に減り、その影響が「まけないぞう」事業の注文やタオル収集に確実に反映され、津波から 2 年目を過ぎ、注文がストップし、タオルもぎりぎりの状態になっている。それでも被災地でのニーズはまだまだあるが、こちらとしても在庫を増やすわけにはいかず、生産を抑え、新しい作り手さんの確保は保留のまま、現状維持を続けるのが精一杯な状況である。

それでも被災者は「まけないぞう」に心を寄せつつ、潤いのある生活を求め続けている。以下メッセージを紹介する。

幸い自宅付近はとても震災前の姿を思い出せないほどに、壊滅的な状態ですが、自宅を修理し、昨年 10 月より元の場所に住むことができています。しかし、あの日中学 3 年生の娘と 1 才の孫を連れ、車で避難するさい、津波にのみ込まれてしまいました。幸いにも一時は孫が海水を飲み込んでしまい、危うく守れなかったところでしたが、自分の出来る限りの努力で何とか水を全部吐き出すことができ、紙一重のところを救えました。震災から 1 年 8 ヶ月を迎えても今だ風呂が大嫌いで毎日大泣きです。娘もストレスから原因不明の吐き気、呼吸困難が続き、回復するまで半年かかりました。いくらか落ち着き始めましたが、近所でも数十人の人が犠牲になり、知人も少なくありません。親戚も今だ不明の人が多々います。そんな中知人から「まけないぞう」さんを紹介してもらい、楽しみに縫っています。

震災後色々な事が頭をめぐり、不眠症になり、薬を服用していますが、前を見て頑張って家族を守って行かなければと気を入れて頑張ってます。文章を書くのが苦手で想いが伝わったかわかりませんが、皆さんも風邪など引かずに気をつけて暮らしてくださいね。

PS: 外に出て働くのが怖くなり、自宅でする仕事を望んで頑張っていますので、よろしくお願いします。(2012/11/30 宮城県石巻市 女性)

このように、被災者は精神的な拠り所として、「まけないぞう」を作り行っている。先行きの見えない被災地で、その苦痛を忘れさせ、不安を少しでも省くことに役割を果たした。

・実績: 31,428 頭出荷(うち子ぞう・親子ぞう・リングぞうは 1,695 頭)

・作り方講習(岩手県は省く)

8/8 ちばコープ旭市の仮設訪問(千葉)

4/16 宮城県石巻市渡波でまけないぞう講習会

・回収、作り方講習会(岩手県遠野市、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市など)

4/2~4/9、4/26~5/14、6/26~7/9、8/19~9/4、9/23~10/3
11/1~11/15、2/4~2/13

・まけないぞう報告会等

4/26~29 CODE 芹田理事長視察同行(岩手県)

5/18 東京大学似田貝氏ヒアリング(神戸)

5/26 人権教育兵庫第15回総会講演会(神戸)

5/28 尼崎人権啓発協会総会講演会(尼崎)

7/10 神戸大学オリエンテーション(神戸)

7/11 西宮市立深津小学校講演会(西宮)

7/25 平和友好祭北播磨地区学習会で講演会(社)

9/16 「3.11ここに生きる」上映会参加(大阪)

9/20 「3.11ここに生きる」上映会参加(東京)

9/28~9/30 全日本仏教婦人連盟視察同行(岩手)

10/15 神戸YWCAヘルパー講座で講演(神戸)

10/18~19 まけないぞうサミット in 山古志(新潟)

10/20 第34回自治研全国集会第12分科会(神戸)

10/20 第3回市民ひろば「サロン・団談」講演会 in 高槻

10/21 全日本仏教婦人連盟講演会 in 京都

10/23 まごころバスのボランティアへの説明会 in 神戸

1/11 いちばギャラリー講演会 in 神戸

1/12 「震災と人間そして私」シンポジウムコメンテーター
in 神戸

1/18 稲穂塾講演会 in 高槻

1/17 解放同盟青年部交流会講演会 in 神戸

1/28 復興ものづくり交流会 in 石巻

3/1 コープ兵庫講演会 in 神戸

・イベント等での販売

5/3~4 高槻ジャズフェスティバルにて販売

10/7~6 高槻ジャズとグルメフェアでの販売(高槻)

10/16 ラッシュ・ジャパン チャリティ発表会(横浜)

11/19 松方ホールコンサートでの販売(京都)

12/16 シサム工房フリーマーケットでの販売(京都)

3/10 コープちばきやっせでの販売(千葉)

・京都(立川さき)で販売

・もりおか復興支援センターにて、復興支援グッズ・被災地
グッズの主宰団体の情報交換と今後の在り方の意見交換
会(8/2)

・いちばギャラリーで出店と講演(1/11)

3. 災害救援事業

1) 国内災害に関する救援・復興・提言活動

(A) 東日本大震災

当センターでは、震災から2年間様々な活動を展開して
きた。震災当初から続けてきたまけないぞう事業につ
いては、遠野市の常駐体制から神戸からのサポート体制
へと移行した。また、日本財団 ROAD プロジェクトへのス

タッフの出向は、予算、事業規模縮小に伴い0.5人減と
なったが継続。宮崎一東北の野菜サポーター事業は限
られた資金内で継続をしていたため、8月を持って終了
した。また、アレルギー対応粉ミルクを送るプロジェクト
についても資金の範囲内で継続した。

*ROAD 出向スタッフの給料は JICA から受託されてい
る株式会社地域計画連合からの再受託費用で賄った。

・ROADプロジェクト内の「仮設住宅支援連絡会」には毎回
出席。(5/14、7/11、8/16、9/5、11/2、1/21、3/15)

7/2 福島県川内村を訪問

7/4 福島県相馬郡新地町役場を訪問

7/14 東京大学本郷キャンパスにて『「孤立・排除」から包摂
へ』、『「よりよいホットライン」報告会』

7/20 赤坂憲雄さんの講演『東北の復興 日本の明日』を聴
講

・大阪弁護士会司法シンポ プレシジョンムにて『避難
者支援法制の確立にむけて～広域避難者の実態調査を
もとに～』を聴講

8/10 不良ボランティアを集める会 被災地への送り出し研
修で講義

10/9 ROA プロジェクト情報交換会(福島県飯坂)に参加

10/10 福島県郡山市から須賀川市へ、町再建のための
「須賀川知る古会」活動訪問

10/24 関西県外避難者の会・福島フォーラム

11/20 シンポジウム『災害時における個人情報適切な
取扱い～高齢者・障害者の安否確認、支援、情報伝達
のために～』を聴講

1/27 『避難者がつくる公聴会』を聴講

1/22 原発事故 子ども・被災者支援法に基づく施策の早
期実現を求める院内集会

3/8 不良ボランティアを集める会 被災地への送り出し研
修で講義

(B) 日本財団 ROAD プロジェクト

昨年度に引き続き、日本財団ROADプロジェクトにスタッ
フの頼政1名を出向させた。2012年度も引き続き東京から
足湯隊を送り出し、合計で約1万6千件のつぶやきを集め、
東大被災地支援ネットや精神健康の専門家の協力のもと分
析作業を行っている。また、その分析結果を検証する「つぶ
やき研究会」を開き、東京大学被災地支援ネット以外の専門
家からも意見をもらってきた。その結果、足湯ボランティアが
被災者への心の初期的なケアの一つとして大きな意味があ
ることが分かってきた。特に臨床心理的なケアになっていると
いうことは様々な専門家からの視点でも認識されてきたこと
だ。

(C) KOBE 足湯隊の活動

当センターが事務局を務める「KOBE 足湯隊」は、主に
能登半島(2007年地震発生)・兵庫県佐用町(2009年水
害発生)・和歌山県那智勝浦(2011年水害発生)など地震

や水害の被災地に出かけてきた。同足湯ボランティアは、2010度から神戸学院大学を初めとする「ポーアイ4大学連携事業」として、佐用町へ15人程度の大学生(神戸大学、神戸女子短期大学、神戸学院大学)が年に数回入った。

東日本大震災では、神戸大学ボランティアバスのメンバーが被災地での足湯ボランティアを継続して行ってきた。
・ミーティング: 4/10、6/8、7/9、8/8、9/25、10/4、10/30、11/15、2/14、3/16

4/22 足湯ボランティア新人講習会
5/3~4 和歌山派遣
6/3 チャレンジにて募金活動
6/17 佐用町派遣
6/23 摩耶地域福祉センターにて足湯
6/28 和歌山水害募金@六甲道駅
7/8 佐用町派遣
7/21~22 大分竹田市派遣
7/21~22 熊本阿蘇派遣
7/22~23 能登半島派遣
7/28~29 大分竹田市派遣
8/21 宇治派遣
8/24 足湯講習会@岸和田
8/25 足湯講習会@大阪
8/27 宇治派遣
8/27~29 神戸大学夏の実践塾@和歌山
9/2 宇治派遣
9/18~21 お熊甲祭り参加
9/29 摩耶福祉センターにて足湯
12/8・9 全国足湯ボランティア交流会(於東北大学)
12/22 摩耶福祉センターにて足湯
1/13~14 和歌山派遣
1/27 イザ!カエルキャラバンにて足湯
1/27 みんなのBOUSAin神戸に参加
3/10 佐用町派遣
3/22、23 PEPUPカフェにて足湯

(D)佐用町での活動

佐用町での活動は、トヨタ財団からの助成事業が前年度で終了したのちも、「ポーアイ四大学連携事業」や山林整備活動を継続してきた。また、KOBE 足湯隊も足湯ボランティア活動を展開した。

7/8 KOBE 足湯隊の活動(佐用町平福・佐用郵便局)
7/15 佐用町奥海にて聴講と足湯
10/27 佐用町奥海にて森林整備活動
12/1 佐用町奥海にて足湯

(E)平成23年度東海地震に備えた災害ボランティアネットワーク

静岡県で開催している「東海地震などを想定した広域連携図上訓練」(2012年度で8年目)のリーダー的役割として今年もワーキンググループから参画し、スタッフの頼政

も若手リーダーとして準備段階から参画した。また、浜松出身の上野も2回目と参加なり、訓練の中で地元団体からの要請を受けて静岡の県内団体とうまく連携した支援の動きをすることが出来た。

3/2、3 第八回東海地震等に備えた図上訓練
委員会:6/19、8/6、10/22~23、12/13、12/18、1/14、1/29、2/20

(F)震災がつなぐ全国ネットワーク

震災がつなぐ全国ネットワークは例年通り関わったが、スタッフの頼政が震つな若手幹事会メンバーとして次世代の若手として関わってきた。

5/27 震つな総会
5/26 気仙沼移動寺子屋・気仙沼
11/10 震つな総会・高知
11/11 大寺子屋・高知
3/26 震つな移動寺子屋 in 東京

2) 海外災害に対する緊急救援活動とその後の復興へつなげる支援活動

当センターはCODE 海外災害援助市民センターの事務局をサポートしながら、震災の経験を伝え、痛みの共感をし、お互いに学び合い、海外の災害救援を通して、支えあいの輪を広げてきた。2012年度も東日本大震災への支援活動などで多大なご協力をいただいた。

4. 提言・ネットワーク事業

東日本大震災の支援活動として行ってきた、まけないぞうと足湯を通して、「心のケア」として大きな意味合いを持つということを提言してきた。具体的には、足湯から集めた「つぶやき」については、既にふれているが東京大学被災地支援ネットワークと協力し分析を行うことで、より明確に心のケアの意味づけがなされてきた。また、日本財団ROADプロジェクトが中心となり、「つぶやき研究会」を開いていく中で、足湯が初期的な心のケアの役割を大いに果たしているということが確認されてきた。

また、2012年度で8回目を迎えた「東海地震に備えた図上訓練」での災害ボランティアネットワークが大きく注目を集めきた。同訓練では、災害時にボランティアと地域や行政、社会福祉協議会をつなぐ役割の「リエゾンキーパーソン」の重要性が再認識されてきた。東日本大震災では「リエゾンキーパーソン」が活躍したが、同時に「リエゾンキーパーソン」として動ける人材が不足しているということも指摘されてきた。静岡の図上訓練は、この「リエゾンキーパーソン」育成の場としても機能してきた。

(A) ネットワーク事業

4/13 東日本大震災東大被災地支援ネットワーク会議
4/13 再生フォーラム会議
4/27 災害復興学会
5/11 アドバイザー委員会(神戸大学学生ボランティア支

援室)

5/15 しみん基金 KOBE 理事会
5/18 日朝友好兵庫県民の会拡大常任委員会
5/31 しみん基金 KOBE 総会
6/3 日朝友好兵庫県民の会総会
6/11 KOBE ピースi ネット会議参加
6/12 関西 NGO 協議会からの派遣で NGO 外務省定期協
議会に出席
6/19 第3回新長田駅南地区再開発を考える会
6/19、再掲 静岡ネットワーク委員会
6/22 再生フォーラム会議
7/11 KOBE ピースi ネット会議参加
7/13 全日本仏教婦人連盟 関西の会
7/20 人と防災未来センター事業評価委員会
7/23 しみん基金 KOBE 理事・審査員合同会議
7/30 しみん基金 KOBE4 役会議
8/7 再生フォーラム会議
8/6、再掲 静岡ネットワーク委員会
8/5 ピースフェスタ明石
8/29 津久井進・著『大災害と法』出版記念講演会の祝賀
会
9/6 東日本大震災東大支援ネットワーク会議
9/12 三井物産環境基金・2012 年度上半期年度助成団
体交流会で分科会のコーディネート
9/16 再生フォーラム総会
9/18~21 お熊甲祭り
10/6 災害復興学会 2012 年度大会
10/24 全日本仏教婦人連盟 追悼法要
10/30 しみん基金 KOBE 公開審査会
10/22~23、再掲 静岡ネットワーク委員会 WG
11/1 再生フォーラム会議
11/27 再生フォーラム会議
12/6 しみん基金 KOBE23 年度成果報告会
12/13、再掲 静岡ネットワーク委員会 WG
12/18、再掲 静岡ネットワーク委員会
1/9 再生フォーラム会議
1/12 災害復興学会全国被災地交流集会
1/13 災害復興学会総会
1/13 災害復興学会シンポジウム『1人ひとりに「守るべきも
の」がある社会へ～災害復興と社会的包摂～』に参加
1/14、再掲 静岡ネットワーク委員会 WG
・静岡ネットワーク委員会(1/29、再掲)
2/5 ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク委員
会(静岡)
2/20、再掲 静岡ネットワーク委員会 WG
3/2~3、再掲 第八回東海地震等に備えた図上訓練
3/14 ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク委
員会(静岡)
3/15 東日本大震災東大被災地支援ネットワーク会議
3/18 しみん基金 KOBE 理事会
3/28 アドバイザー委員会(神戸大学学生ボランティア支

援室)

(B) 報告会・講演活動

4/14 金沢ボランティア大学校「十人十色のボランティア～
災害ボランティア活動から見えること～」
・茨城県生活協同組合「東日本大震災報告会」
5/27 市民フォーラムおおさかで講演
5/27 2012 年度市民セクターよこはま総会で講演
6/3 東北大学にて福祉社会学会第十回シンポジウム
6/8 高野山真言宗社会人権局において災害コーディネー
ト研究会で講演
6/20 鈴蘭台食品公害セミナーにて講演
6/24 京都府福知山市雀部地区社会福祉推進協議会主
催のボランティアスクール企画にて、福知山市立雀部小学
校で講演
6/30 兵庫県弁護士会館にて『今、被災地では何が求めら
れているか～復興支援のためになすべきこと～』で講演
7/28 日本災害看護学会 第十四回年次大会分科会で
講演
8/21 シンポジウム『本当の豊かさを育む大切さを知る』第
3 部にて『阪神・淡路大震災の経験から東日本大震災の
復興に向けて』を講演
8/24 土生神社にて熊野復興記念行事『大地を歩き足で
祈る』で講演
8/25 広島県竹原市にて『東日本大震災と人権～原発を
問う～』で講演
9/8 新宗連結成 60 周年・大阪府協議会記念集会
9/22 『率先市民主義と大学の役割』にシンポジストとして
参加
10/13 市民フォーラムおおさか『日頃からの防災学習講座
～市民による災害時支援活動～』
10/20 第三十四回地方自治研究会全国集会パネリストと
して参加
10/26 神戸大学大学院特別講義「ジャーナリズム・ワーク
ショップ」にて講義
10/28 KS 桜宮北鈴蘭創部 40 周年記念にて講演
11/4 千葉県木更津教育報告委員会にて『東日本大震災
とボランティア～十人十色のボランティアが社会を変える
～』を講演
11/6 兵庫県立大学防災教育センターにて『災害支援とボ
ランティア』で講義
11/19、11/26、12/3、12/10 松陰女子学院大学で講義
11/23 ボランティア講演会にて講演
11/29、12/6、12/13、12/20 福井大学にて講義
12/9 コープこうべにて講演
12/19 国際ボランティア支援ネットワークにて『国際災害ボ
ランティアの現場から見たもの』で講演
12/25 神戸大学後期授業
1/12 松陰女子学院大学にて講義(パネリスト増島)
1/23 堺市総合福祉会館にて『気づきのボランティア市民
講座』を講演

2/24 『須賀川知る古会』にて講演(福島県)

3/16 御津やすらぎ会館にて映画『禁じられた大地・フクシマ』を上映、東日本大震災被災者支援について講演

<関係団体・グループとのネットワーク>

- ・しみん基金 KOBE/副理事長
- ・震災がつなぐ全国ネットワーク/顧問
- ・人と防災未来センター/事業評価委員
- ・神戸再生フォーラム/共同代表
- ・レスキューストックヤード/評議員
- ・21世紀まちづくり賞選考委員
- ・CODE 海外災害援助市民センター/理事・事務局長
- ・日本災害復興学会/副会長
- ・関西学院大学災害復興制度研究所/外部研究員
- ・神戸大学非常勤講師
- ・神戸大学・学生支援 GP「地域に根ざし人に学ぶ共生的人間力」運営委員会/委員
- ・東海地震に備えた災害ボランティアネットワーク委員会
- ・9条の会ひょうご

4. 広報事業

会員間の連携と協働の充実を図るとともに、被災地内外の関係団体、支援者への情報発信を行った。

- ・じやりみち 2回発行(1回目約800部・約2500部)
- ・HPの充実化については、活動レポートやニュースを即日ブログにアップすることにより、HPやFacebookをほぼ毎日更新してきた。

5. その他

(A) 脱原発ハンガーストライキ

昨年度に大飯原発が再稼働されたことを受けて、事務局内のミーティングにて脱原発ハンガーストライキを行うことを決定し、「原発が停止するまでやり遂げる覚悟」持って今日まで続けてきた

6/10 大飯原発再稼働に反対するための対応を事務局内でミーティング。ハンスト決行と14日からの開始を決定。

6/14 ハンスト開始

7/16in 東京 さよなら原発1000万人アクション

10/6~7in 福井 さようなら原発兵庫県実行委員会主催の大飯原発視察参加

(B) その他

4/23 <ボランティア>原田くんが事務所に来てタオル仕分け

その他数人のボランティアが来てくれた。

5/23 岐阜市立加納中学校修学旅行研修受け入れ

7/8 大賀重太郎さん死去